

学校名 _____

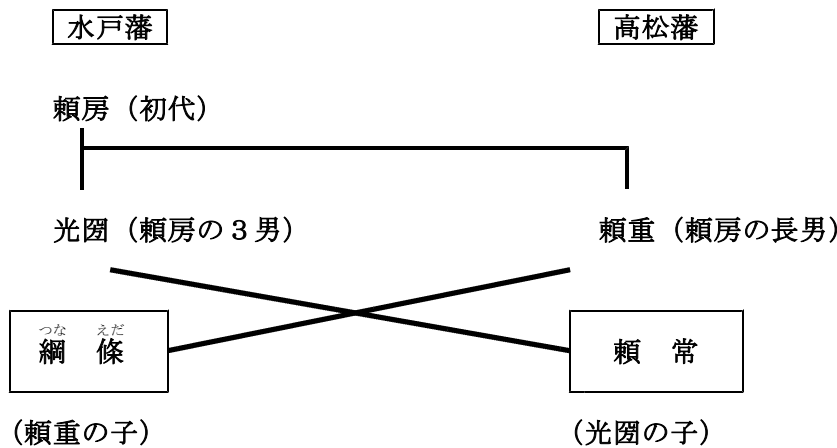
学年・名前 _____

とくがわみつくに

徳川光圀コース

旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 **江戸時代** 明治・大正・昭和時代

水戸徳川家の初代は、家康の11番目の子である頼房で、尾張家（9男義直）・紀伊家（10男頼宣）とともに御三家といわれ、将軍を補佐する立場にありました。水戸家は、尾張家や紀伊家のような参勤交代がなく、いつも江戸にいました（定府といいます）。
 水戸家の2代藩主は頼房の3男である光圀です。子どもの頃の光圀は、学問がきらいで遊び好きな子どもでしたが、青年になった時に心を入れかえ、学問にはげむようになりました。ここでは、光圀のおこなったことがらをもとに、江戸時代のようにすについて考えます。



どうしてとりかえたのかな



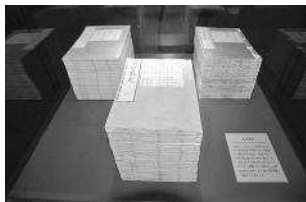
《子どもをとりかえた光圀》
 光圀は18歳の時に中国の歴史書を読み、兄弟の順に家をつぐべきであると考えました。弟であるのに水戸藩主になった光圀は、水戸藩の3代藩主に兄の子（綱條）をむかえ、高松藩の2代藩主を自分の子（頼常）としました。

問題2 光圀がおこなった事業について、写真・名前・内容があてはまるものをそれぞれ線で結びましょう。



大日本史

北海道を探検するために造った大きな船



笠原水道 (竹製水道管)

全国から集めた史料をもとに編さんした日本の歴史書



快風丸

水戸城下の人々の飲料水

問題3 「大日本史」の編さん事業は光圀によって始められましたが、完成したのは明治39年でした。およそ250年間にわたり水戸藩の事業としてとり組んでいたのです。光圀は編さんする場所を、過去を彰(あきら)かにして未来を考えると意味から、()と名づけました。

光圀は「大日本史」を編さんするにあたり、家臣の学者を全国に調査に行かせ、残された古い史料を書き写させました。その中に、佐々介三郎(さっさすけさぶろう)、安積覚兵衛(あさかかくべえ)などがあります。光圀が全国を歩いたというお話は、実際には家臣である学者が史料調査に出かけたことからうまれたのかもしれませんが。

「大日本史」編さんは、水戸藩の事業として明治時代まで続けられます。この事業のなかで、水戸藩の内部に尊皇思想そんのうしきょうという、天皇をうやまう考えがおこります。やがてこの尊皇思想が全国にひろがり徳川幕府をたおすことになりました。

問題4 9代藩主徳川齊昭とくがわりあきは、財政を立て直すとともに学問教育に力をいれ、藩校の()を造りました。また、外国の船が海岸にあらわれたので、大砲を造るための反射炉を那珂湊に造りました。

問題5 次の人物の写真をみて名前を書きましょう。



水戸藩の9代藩主で、偕楽園かいらくえんをつくった。子どもの徳川慶喜は最後の将軍となった。



貧しい農村をたてなおすのに力をはっきした。



古河藩の家老で、藩主を助け古河藩の改革をおこなった



幕府の役人となり北海道・樺太からふとの探検を行った。発見した海峡にはこの人の名前がつけられた。

印